

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	保健体育	科目	体育 A	学年	1 年次	単位数	3単位
教科書	大修館 現代高等保健体育		副教材	大修館 アクティブsports2025 総合版			
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	8回	メディア 視聴票	4通	試験	2回
指導 目標	<p>○運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>						
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア NHK高校講座 (ラジオ第2回・Eテレ▽)	
1	4月12日	5月31日	○スポーツの発祥と発展 ○陸上競技 ○バスケットボール	○スポーツの始まりと変遷 ・世界の民族スポーツ ○文化としてのスポーツ ・日本生まれのスポーツ ・競技スポーツにおける競争の意味 ○陸上競技の技術特徴 ○バスケットボールのルール・基本技能	5	○1 健康の考え方と成り立ち ○2 私たちの健康のすがた ○3 生活習慣病とその予防 ○4 がんの原因と予防 ○5 がんの治療と回復 ○6 スポーツの変遷とスポーツ文化 ▽1 体づくり運動 ▽3 短距離走・リレー ▽5 バスケットボール	5
2	5月31日	7月12日	○スポーツの発祥と発展 ○バレーボール	○オリンピックとパラリンピックの意義 ・オリンピックの課題 ・パラリンピックの課題 ○スポーツが経済に及ぼす効果 ○バレーボールのルール・基本技能	5	○7 オリンピックとパラリンピックの意義 ○8 スポーツの経済効果とスポーツの高潔さ ○9 食事と健康 ○10 運動、休養、睡眠と健康 ○11 喫煙、飲酒と健康 ○12 薬物乱用と健康 ▽2 マット運動	
3	7月12日	11月15日	○スポーツの発祥と発展 ○バドミントン	○スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツの価値について考えてみよう ・なぜドーピングは許されないのか ○スポーツと環境 ・スポーツとまちづくり ○バドミントンのルール・基本技能	5	○13 スポーツにおける技能と体力 ○14 スポーツにおける技術と戦術 ○15 精神疾患の特徴 ○16 精神疾患予防と回復 ○17 健康に関する意思決定・行動選択と環境づくり ▽8 剣道	4
【知識・技能】							
<p>○体育理論・・・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。</p> <p>○実技・・・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。</p> <p>○ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p>							
【思考力・判断力・表現力】							
<p>○体育理論・・・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。</p> <p>○実技・・・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>							
【主体的に学習に取り組む態度】							
<p>○体育理論・・・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>○実技・・・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>							
<p>○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。</p> <p>○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。</p> <p style="text-align: center;">単位の修得の認定に関する基準</p>							
<p>観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に担当された単位数の修得を認める。</p>							